

社会関係資本に注目した農業・農村の持続可能性に関する地理学的研究

寺床, 幸雄

<http://hdl.handle.net/2324/1806778>

出版情報 : Kyushu University, 2016, 博士 (文学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏名	寺床 幸雄			
論文名	社会関係資本に注目した農業・農村の持続可能性に関する地理学的研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	高木 彰彦
	副査	九州大学	教授	遠城 明雄
	副査	九州大学	准教授	今里 悟之
	副査	九州大学	准教授	岩崎 義則

論文審査の結果の要旨

本論文は、社会関係資本を分析枠組みとして農業・農村の持続性について実証的に論じたものである。論文は8章から成る。第I章で研究の背景と分析視点・目的を述べたあと、日本の農業・農村の持続性を概観した第II章では、耕作放棄地を指標として日本の農業・農村の変容と地域性について、中山間地域を中心に検討している。その結果、耕作放棄地を指標としたミクロな実証研究が必要であると述べる。

続く第III章は方法論的な検討を行った章で、社会関係資本に関する既存研究のレビューを行い、関係性の差異に注目した「結束型・橋渡し型」と、形態の差異に注目した「構造的・認知的」という二つに区分する枠組が有意義だと主張することで、農業・農村研究において社会関係資本に注目することの意義を明確にしている。

第IV～VII章は前2章での問題提起を受けた実証研究に相当する。まず第IV章では、水俣市の中山間地域を事例として、耕作放棄地の拡大とその要因について、農家の経営選択のプロセスと耕地利用の時代的变化に注目して検討し、農業の持続を支える社会関係の不在が耕作放棄地拡大に繋がった。これに対して第V章の事例は、同様の地理的環境にありながら、耕作放棄が抑制され棚田の保全管理がなされていた。ここでは、集落内で形成された共同作業をめぐる規範などの結束型社会関係資本に加え、集落外の主体との連携を維持する信頼や互酬的關係などの橋渡し型社会関係資本が耕作放棄の抑制に重要な意味を持っていた。

日本の果樹栽培地域では農産物の輸入自由化に伴い耕作放棄地が拡大しているが、第VI章で取り上げた長崎市千々地区では、ピロ栽培が地区内の農業をめぐる役割や規範に加え、行政や農協などの地区外の主体との連携によって維持されてきた。とはいえ、近年の高齢化や農家減少による担い手不足のために、そうした関係性が変容し、農業の持続を十分に支えられなくなっているという社会関係資本の限界性が認められる。第VII章の長崎県長与町の事例では、全戸参加的な役割や規範といった結束型社会関係資本と、農業改良普及所などとの連携を維持する橋渡し型社会関係資本とに支えられ、研究同志会の活発な活動や新品種の導入などが行われていた。ここでは、兼業化と高齢化が進んでも、多様な主体が参加できる関係性の構築により、新たな農業的協働が実現されている。

最後の第VIII章では、本論文で「結束型・橋渡し型」・「構造的・認知的」という社会関係資本の枠組みを提示することにより、①「結束型」を土台として「橋渡し型」が機能していること、②「構造的」に加えて「認知的」をも検討することで、地域の変容をふまえた農業・農村の持続に関する議論が可能になること、③社会関係資本の形態と役割は自給的・商業的農業地域という農

業の地域的文脈によって異なること、の3点の成果が得られた。このように本論文は、これまでその重要性が指摘されながらも具体的な検討事例を欠いていた社会関係資本に関する研究枠組みを提示することによって、研究の有効性を具体的に示した点に意義がある。

以上のことから、本調査委員会は本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるに十分な能力をもつと認めるものである。